

巨樹・巨木シリーズ26 長野県-4

細田木材工業株式会社
顧問 細田 安 治

巨樹・巨木シリーズ長野県版は4回目となった。資料を提供してくれているU氏は熱心でエネルギーシユ。長野県だけで70本近い探索計画を立て、交通事情が許す限りそのほとんどを走破し、そして克明に記録している。この原稿を書くたびにU氏の道中が安全に探索を続けられることを祈っている。

さて、長野県レポートは今回で打ち止めとし、11月から次のU氏の足跡をたどることにする。

今回は針葉樹を主として選木した。

写真番号-1 樹番号48 ^{なかとう}中塔のツガ

樹齢推定約400年、樹周4.63m、樹高25m 松本市梓川梓 松本市指定天然記念物

このツガは、中塔阿弥陀堂近くにある。そばには「中塔阿弥陀堂のしだれサクラ」がある。

ツガは常緑針葉樹で建築資材や製紙用材として使われることが多いことから、巨木として残っているこのツガは貴重である。(松本市ホームページより)

<筆者のつぶやき>

このツガがある梓川と言えば避暑地として有名な上高地を流れる川であり、観光客が多数訪れるところだ。筆者も何度か訪れ、風光明媚な上高地を楽しんだ記憶がある。本来ツガは山地に生えるが、このツガは平野部に生育した立派なツガの木だ。樹齢は約400年だが木の勢いは天を突くようになお盛んな樹相である。まっすぐ伸びた2本の幹はともに競うように天を目指している素晴らしい巨樹である。

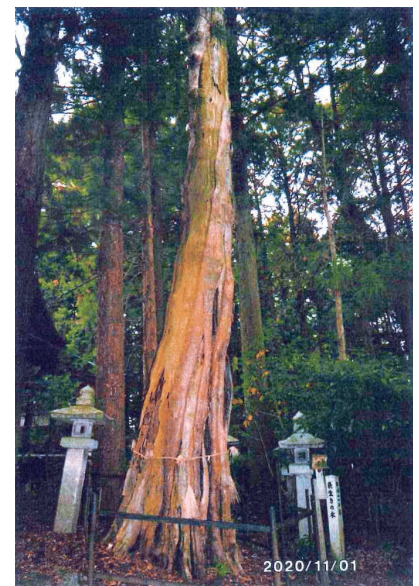


写真1 中塔のツガ

写真番号-2 樹番号51 木下のケヤキ

樹齢伝承1000年、樹周13.2m、樹高26m 上伊那郡箕輪町中箕輪
長野県指定天然記念物

かつて若宮と呼ばれた御射宮司社の跡地(現在の木下北保育園)敷地内にある。四方に枝を広げた美しい樹形を持ち、枝葉の面積は、約600m²になるとも言われている。(長野県公式観光サイトより)

<筆者のつぶやき>

これだけのケヤキの巨木で損傷のないものは珍しい。

失礼ながら樹齢1000年は疑わしいが、それは伝承として、この木そのものを見なければならない。

正面から見ると大きな祠を持つ神々しい木である。大きな祠は、神様の御尊顔、しめ縄の下にあるコブは、神様の足元にすぐる大勢の信者に見える。別の角度からみる、頭部は、十字架にかけられたキリストにも見えてきた。となると、次々に顔を出してくる小さな「ひこばえ」はイエスキリストを仰ぎ見るキリシタンか。

このように見方を変えると、幾通りの見方がある。見る人により違う見方があるのは当然なるもご神木、古木を見て様々な思いを巡らすのは楽しいことである。

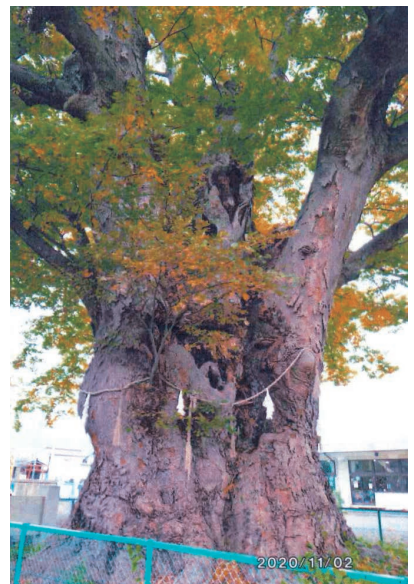


写真2 木下のケヤキ

写真番号-3 樹番号54 仲仙寺の^{あいおい}相生スギ

樹齢300年以上、樹高7.7m、樹高45m 伊那市西箕輪羽広

杉林で清められた仲仙寺の境内の中心にあるスギの木が相生スギである。なるほど一本の幹の途中から分かれてどちらが劣るともなく共に真っすぐ、しかも勢いよく伸び天を指している。樹高45メートルの高さとは、マンション14階分の高さだ。ここでの気づきは、「仲良くすればともに栄える」ということである。

このスギのある仲仙寺とは、天台宗の古刹で「羽広観音仲仙寺」とも呼ばれており、馬の観音様として知られている。各地より馬の健康安全を願って、馬を連れての参詣が盛んだった。(伊那谷観光局ホームページより)

＜筆者のつぶやき＞

そもそも^{あいおい}相生とは「共に生きる」の意味である。本稿の相生スギは二つ以上の幹が同じ根元から分かれて勢いよく伸びる^{さま}様を意味している。

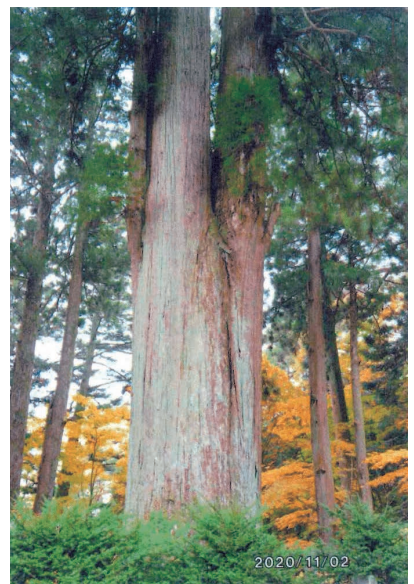


写真3 仲仙寺の相生スギ

筆者の母校、都立三商のある越中島は、隅田川の江東区側の出口である。一方、中央区佃島とは緑豊かな中州を経由して相生橋でつながれている。つまり、相生橋の名は二つの地域がともに繁栄することを祈ってつけられたのではないか。

兵庫県の高砂市高砂神社にも、「相生のマツ」がある。

「相生」とは深い言葉で、中国の五行思想には、「土が金」を「金が水」を「水が木を育てる」このように共に生かし合う関係を「^{そうせい}相生」と呼ぶらしい。

写真番号-4 樹番号57 ^{わかみや}若宮のサワラ

樹齢1000年、樹周8.2m、樹高42m 木曽郡木曽町三岳 三岳村指定天然記念物

このサワラは、御嶽山神社里宮内に立ち、下枝のない美しい立ち姿で人目を惹く。

御嶽山を霊峰と仰ぐ御嶽神社は、大宝2年(702年)に頂上奥社が創建され、里宮は文明16年(1484年)に現在の地が再興されたとのことである。二番目に建てられた御宮様、二宮と理解した。

古くは岩戸権現と称され、室町時代後期頃から御嶽三十八社の一社として信仰を集め、江戸時代には御嶽山座王大権現の里社として全国にその信仰が広まった。

<筆者のつぶやき>

サワラはヒノキとよく似ているので、少々比較したい。

サワラ(榧、学名: Chamaecyparis pisifera)は、裸子植物マツ綱のヒノキ科ヒノキ属に分類される常緑高木になる針葉樹の一種である。ヒノキに比べて枝葉がまばらである。



写真4 若宮のサワラ

■サワラとヒノキ

葉の裏の模様

- ヒノキ: Y字模様(葉の裏側にある気孔線がYの字)
- サワラ: X字または蝶形模様(葉の裏にある気孔線がXの字、あるいは蝶の形)

香りの有無と種類

- ヒノキ: 芳香がある(特有の心地よい芳香があり)
- サワラ: 香りが少ない(強い香りが無いのが特徴)

葉の形と触り心地

- ヒノキ: (葉の先端が丸み)
- サワラ: (葉の先端が尖りチクチクする)

樹木の性質と用途

- ヒノキ: 芳香と光沢があり、耐久性に優れているため、建築材や仏像彫刻、ヒノキ皮葺きの屋根材などに使われる。
- サワラ: 湿気に強く、乾燥による変形(狂い)が少ないため、水に触れる用途の桶、おひつ、飯台などに適している。また、水に匂いをつけたくない用途にも利用される。(以上、ウィキペディア参考)

サワラは良材の目利きが難しく専門家でなければ失敗する。半世紀前にはサワラ専門業者が盛業を極めていたが、プラスチック風呂用品の登場により極端に少なくなっている。しかし、サワラは香りはないが、素晴らしい柾目は見るだけで気持ちが豊かになるほどの素晴らしい木だ。

サワラとヒノキの比較をしたので、似ている材としてヒバにも触れる。

■ヒバ

ヒノキそっくりだが香りが強すぎることで、割れやすいことなどがヒノキより劣る点だ。昔は「青森ヒバ」と言う銘柄がヒバを代表していた時代もあった。ヒバの全盛時代のことである。

また、ヒバは別名^{あすなろ}翌檜。「あすなろ」は「明日(あす)はヒノキ(檜)になろう」という願いが込められた言葉。ヒノキよりも大きくならないアスナロが、ヒノキのように立派に成長することを願ってつけられ

た名前である。未来への希望や前向きな姿勢、着実に大きくなるというイメージを持つことから、教育関係の団体名や作品名などにも使用されている。(ウィキペディア参照)

写真番号-5 樹番号62 光前寺のスギ並木

樹齢400年、樹周 5 m、樹高30m 駒ヶ根市赤穂

光前寺は長野県駒ヶ根市赤穂にある天台宗の別格本山の寺院である。本尊は不動明王で秘仏。天台宗信濃五山(戸隠山の顕光寺・善光寺・更科八幡神宮寺・津金寺・光前寺)のひとつに数えられた。1967年(昭和42年)、庭園が国の名勝に指定された。枝垂れサクラ、ヒカリゴケでも知られる。

<筆者のつぶやき>

このスギ並木は光前寺の参道にあり、境内周囲には巨樹・巨木が存在する。樹周 5 m、樹高30mの直立した立派なスギが立ち並ぶスギ並木はさぞかし迫力があり、また荘厳な雰囲気醸し出していることだろう。貴重な歴史的資産と評価する。

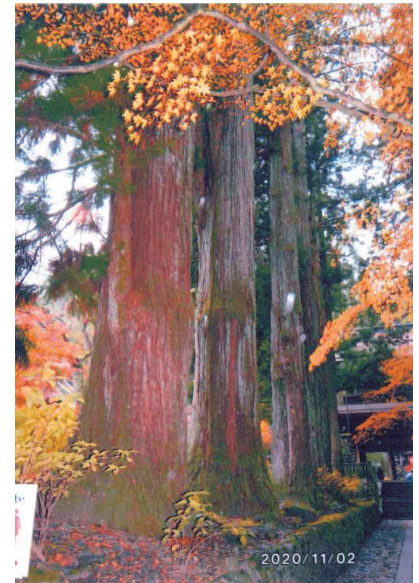


写真5 光前寺のスギ並木

写真番号-6 樹番号63 圓通寺のサクラ

樹齢推定600年、樹周7.3m、樹高16m 駒ヶ根市南割圓通寺

<筆者のつぶやき>

ネットで検索すると圓通寺のサクラはシダレサクラで見事に咲き誇っていた。

U氏の写真は、花の時期ではないが、本体の幹は斜めに傾くも、支えるように枝が巻き付き、傾きを支えている、いや引っ張り起こしているように見え、力強さが木全体に漲っている。しかも緑の葉は青々とサクラの巨木を守っている。素晴らしい巨樹とみた。U氏の写真も素晴らしい。巨樹の特徴をとらえている。

そもそもサクラの長寿は珍しいことだ。ソメイヨシノの寿命は約100年といわれているが、果たしてそうだろうか。

新木場移転前に筆者の製材工場のあった大横川の側道に、ソメイヨシノの成木が植えられた。花見時には桜のトンネルができるほど、立派に花をつけ、近隣はおろか遠方から花見に訪れる人でにぎわっていた。この立派なサクラトンネルがここ数年花の力がなくなってきたように見受けられる。サクラトンネルの花の屋根が透けて見えるようになったのである。木の勢いが衰えてきた証拠とみた。

この事実から推測すると、圓通寺のサクラの巨木が樹齢600年とはいささか信じがたい。もっともこのサクラの種類が違っていれば樹齢600年も頷けないことはない。 続く

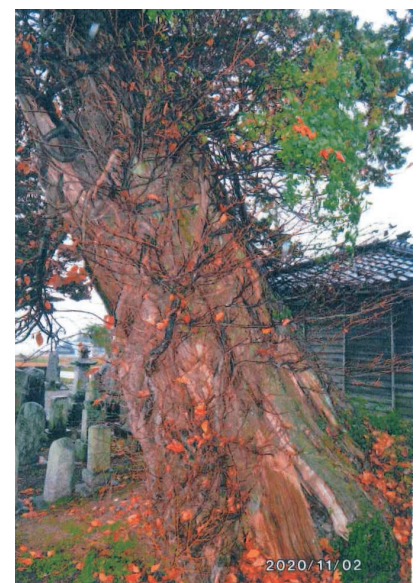


写真6 圓通寺のサクラ